

互いに支え合う共生社会をめざして



▲東福岡地区ふれ愛サロンで開催された刺しゅう教室

全国的に上がり続ける高齢化率は本市も例外ではありません。将来を見据えた生活支援の取り組みが必要となり「ささえ合い協議体」が始まりました。市内の各地域が実施する支え合い活動を共有し、住みやすい地域を創るためにどのような取り組みが必要か話し合いが進められています。例えば、どの地域も頭を抱えているのが高齢者の買い物支援の問題。高齢化率の高い東福岡地区では、実態調査を行い、地域に合った支援のカタチを模索していました。市民が考え、創っていく新たな支援のカタチを広報ボランティアの岩城さんが取材しました。

避けては通れない2025年問題

市の人口は平成28年に6万人を超えた後も増加しています。ただ、高齢者人口も増加していて、今年5月時点では65歳以上の人口が全体の28%、75歳以上の人口が全体の13%を占めているそうです。

7年後の2025年には、団塊の世代が75歳以上となり、医療や介護を必要とする人の割合が高まります。その後、2040年頃までは社会保障費が急増していくことが見込まれています。この、いわゆる「2025年問題」を乗り切るために、地域でできることは地域でやっつけていこうという取り組みが始まっています。

共生社会実現のために「ささえ合い協議体」が発足

人は1人では生きていきません。高齢になれば誰しも支援が必要になってきます。誰もが住みやすい共生社会を実現するために「ささえ合い協議体」が平成28年10月に発足しました。市高齢者サービス課の中村係長に話を聞くと、発足後、まず「地



▲協議体を理解するため表情は真剣そのもの

域の宝を自慢しよう」と題し、各地域でどのような活動をしているのか、話し合ったそうです。その後、居場所づくりや買い物支援など5つのテーマに分かれてグループ討議。そして再度、地域ごとのグループで各テーマの情報を共有しています。協議体とは何なのか、私は全く知りませんでした。名称だけでは何を協議するのかわかりません。協議体の定義は「高齢者や子ども、障がい者など誰もが住みやすくなるように、助け合いの仕組みを創っていくこと、話し合いや情報共有をする場」とのことです。言葉は理解できても、まだぼんやりとしかわかりませんでした。

協議体を見学 活発な意見が飛び交う

6月の協議体を見学してみると、地域住民や介護サービス事業者のほか、イオンモール福津のスタッフなど50人以上の人が集まっていました。テーマは「地域資源マップを充実させよう」。公民館や介護施設、スーパーなど、誰でも利用できる施設を地域ごとの地図に書き込み、それぞれのような利用が可能か共有しました。また、その施設を活用するためのアイデアなど、活発に意見交換をしていました。参加する皆さんが、より良い地域にするために考え、話し合う姿を見て、私自身たくさん気づきがありました。

地域の助け合いを推進する生活支援コーディネーター

協議体の中に、生活支援コーディネーターと呼ばれる人がいて、これまでの活動報告や進捗を説明していました。宮司3区にある「くらしのサポートセンターサンクス」運営委員の清水民樹さんと則武孝明さんです。2人は民生委員・児童委員でもあり、寄せられた困りごとを支



▲サンクスで行われているあんずの里市出張販売

援するなど、以前から精力的に活動していました。自治会に働き掛け、仲間とともに地域内にあった元保養所を借り受けて、地域住民が集う場としてサンクスを立ち上げました。サンクスは、寄り合い場、集いの広場、お困りごと支援の3つの活動を中心に運営しています。このため、庭の手入れや子育ての悩みなど生活の中の困りごとを解決する場になっています。支える側も高齢者が多く「支える人たちの介護予防にもなっている」と清水さんたちは言います。ここでの実体験を踏まえて、地域でどのような仕組みや助け合いが必要なのか協議体で伝えているのです。



街角記者 岩城紀子 いわきのりこ

4年前に福津に移住。小学生の子育てに奮闘しながら、持ち前の明るさで取材相手を笑顔にします。

「街角記者が行く」とは、広報ふくつの広報ボランティアが福津市民を代表して、市や関連団体の取り組みを取材するコーナーです。記者の皆さんの率直な疑問を、それぞれの目線で、時には歯に衣着せぬ言葉で担当者に直接話を聞いてまとめます。

新連載 街角記者が行く
～広報ボランティアの取材報告～



市民が創っていく支援のカタチ

買い物するのにも一苦労
高齢化する東福岡地区

協議体で話題に上っていた東福岡地区にある「ふれ愛サロン」を訪ねました。ここは、地域医療で長年活躍している間厚子さんが建てた地域の憩いの場です。参加者やスタッフの元気な笑い声が響く真新しい建物では、刺しゅう教室が開催されています。ここでは毎日のように趣味の会などを開催しており、そのどれもが地域の人の協力で運営されています。運営委員長の



▲協議体や実態調査など献身的に働く金本さん

高橋功さんは「ここでは先生と生徒ではなく、みんな仲間です。仲間同士、気を遣うことなく気軽にサロンを利用してほしい」と話します。

ふれ愛サロンの活動が活発に行われている一方、東福岡地区は特に高齢化率が高く、50%を超えている自治会もあります。唯一あったスーパーが2年前に閉店してしまったことで、買い物をするのも一苦労です。あんずの里市が週に1回、野菜や果物、加工品などの出張販売をしています。生活雑貨などはどうしても量販店まで買い物に行かなくてはなりません。これは通院と同様に、自家用車で外出できない高齢者にとって大きな課題となっています。

「ほんの少しの声掛けや手助けで人の生活は豊かになる」と話す金本加代子さんは、ふれ愛サロンの運営委員で、協議体にも参加しています。民生委員・児童委員でもある金本さんは「あなたと出会い、あなたと寄り添い、あなたの笑顔にありが

とう」という言葉を教えてくれました。この言葉の通り、人とのつながりがあるからこそ今の金本さんがあり、全ての活動の原動力になっているそうです。

**住民が求める支援とは何か
実態調査を実施**

市の委託を受けた市社会福祉協議会が今年2月から3月にかけて、東福岡の5つの地区に住む75歳以上の高齢者を対象に、訪問によるニーズ調査を実施しました。金本さんは東福岡4区と5区の調査を担当したそう。「東福岡4区は福祉が発足して15年。月に何度か顔を合わせる機会があったけれど、閉じこもりがちで高齢者と話すきっかけにならなかった」と話します。

「地域の人が買い物や病院に連れて行ってくれるとしたら利用しますか」という問いに対して「今すぐ利用したい」と回答した人もいる一方、65%の人が「希望しない」と回答。その理由を問うと「近所の人に迷惑をかけてしまうから」「気を遣う



▲協議体で支援策を話し合う参加者

それぞれの地域に合った
支援のカタチ

自家用車での買い物支援を独自で行っている地区がいくつかあります。若木台3区では、さまざまな生活支援と合わせて、昨年2月から買い物支援を行っているそうです。

宮司西区は、今年3月に買い物支援を始めました。あらかじめ買い物に行く日程を決めておき、支援が必要な人は歩いて集合場所に集まります。この日の利用者は6人で、支援者と共に3台の車に分乗。およそ1時間ほどかけて買い物をしていました。利用した人は「今度はあんな里にも行ってみようよ」と、月1回のこの日を楽しみにしているようでした。



▲買い物をした後は自宅前まで送っていました

このように、地域の住民同士が支え合う仕組みが創られ、そのカタチはさまざまです。私のような子育て世代や、高齢者など、市内には多様な世代が暮らしています。地域ごとにその特色は異なり、新興住宅地には若年層が多く、昭和30年代から昭

和50年代に建設された住宅団地は高齢化しています。それぞれの地域のニーズに合わせた支援のカタチを、地域住民が考え、創っていくことが大切だと感じました。

**市民が創った
新たな支援のカタチ**

さまざまな地域で実施している活動や実態調査の結果を受けて、市は今年度中に「介護予防のための外出支援」を開始するそうです。これは、自治会など地域の団体が主体的に高齢者の外出支援をする場合、市がその団体をサポートするものです。

例えば、活動のための車を確保をすることや、運転者の安全運転講習などを実施します。この外出支援を地域の団体が効果的

に利用することで、買い物などのより良い支援につながるのではないのでしょうか。

以前協議体で、視覚障がいのある人から「視覚障がい者でも市の郵便物だとわかるようにしてほしい」という意見が出たそうです。その後、この要望は実現され、点字シールを貼った封筒が届いているそうです。このように、地域の活動や、協議体の取り組みなどがきっかけとなって、さまざまな支援のカタチが創られています。

協議体では、高齢者の支援の話題が多く、私たち子育て世代の問題は取り上げられていませんでした。開催時間など、若い世代が参加しやすい工夫があると「ささえ合い」の幅も広がるのでは、と感じました。

共生社会をめざして

ささえ合い

協議体

ささえ合い協議体は毎月1回開催しています。いつまでも生き生きと住み慣れた地域で暮らすために、皆さんの意見を必要としています。地域の情報を共有し、皆が住みやすい共生社会を実現しましょう。

参加届を出せば、どなたでも参加できます。当日の届け出もできます。ぜひご参加ください。

次回の協議体

日程 8月22日(水)

時間 18:00~19:30

場所 市役所別館大ホール

問い合わせ

市高齢者サービス課 ☎43・8298

新連載

街角記者が行く

～広報ボランティアの取材報告～

Vol.2